

【2017年】

30名の小学生が地下ダムの仕組みを学習（第6回夏休み野外学習会）

平成29年7月27日(木)と28日(金)の両日、糸満市と八重瀬町の小学生30名と、その保護者24名、合計で54名の応募した方々に、畑を潤し、地域の農業と暮らしを支えている地下ダムなどの仕組みを学習していただきました。

見学した米須(こめす)地下ダム（糸満市）、慶座(きいざ)地下ダム、仲座(なかざ)ファームポンド、仲座加圧機場（以上、八重瀬町）は、平成17年度に完了した国営土地改良事業「沖縄本島南部地区」で整備された施設で、沖縄本島南部土地改良区により操作・管理されています。

この地域の地盤は、サンゴにより形成された琉球石灰岩という水を通しやすい層で覆われており、降った雨のほとんどが地下にしみ込む(50%)か、蒸発(40%)してしまいます。そのため、あまり水を必要としないサトウキビやタバコといった作物しか栽培できない地域でした。国営事業では、琉球石灰岩の地層に地下水を貯め込む地下ダム（コンクリート止水壁）、地下ダムや地下水盆の水を汲み上げるポンプ場、水需要の集中に対応して水供給圧力を安定させるファームポンド（山の上の貯水タンク）、これらの施設と畑を結ぶパイプラインなどを造成しました。国営事業完了から12年目を迎える現在、ゴーヤー、にんじん、さやいんげん、レタス、オクラ、ピーマン、小菊、ラン、パッションフルーツ、アセロラ、マンゴーなども栽培され、これらを直売する多くの店が地元の人々や観光客で一年中にぎわう地域となっています。

学習会終了後に回収したアンケートでは、「沖縄の農業をかけから支えている地下ダムについて知り、雨水が地下にいくことを利用した、ちえとはすごいなーと思いました。(小学生)」、「人間の建設技術にびっくりです。設計・施工に関わった人びとに感謝します。(保護者)」等の地下ダムをたたえる感想もいただきました。

